SECTION

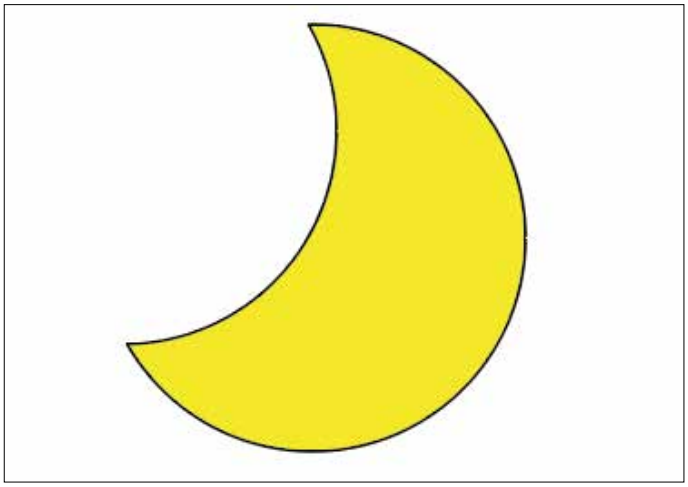
2-5

オブジェクトを合成する

Illustratorには、「パスファインダー」という合成ツールが用意されています。複数のオブジェクトを使って、さまざまな形状を作成できます。

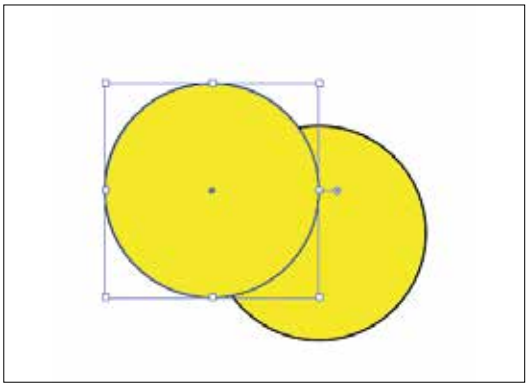
パスファインダーの利用

以下の作例のような月を作成するには、2つの正円を「パスファインダー」で合成して作成します。パスファインダーは、複数のオブジェクトを組み合わせる機能です。組み合わせによって、「合体」や「型抜き」、「分割」などが行えます。



1. 円をコピーする

P.37の方法で、正円を描きます。これをP.40の方法でコピーして、一部を重ねて並べます。すると、コピーした方の円が前面に表示されます。

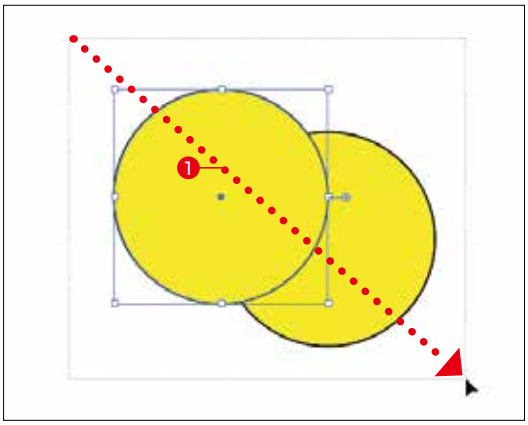


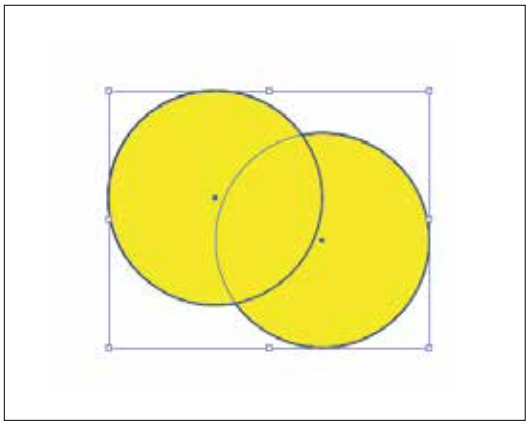
2. 選択ツールを選択する

「ツール」パネルで、選択ツールをクリックします❶。

3.2つの円を選択する

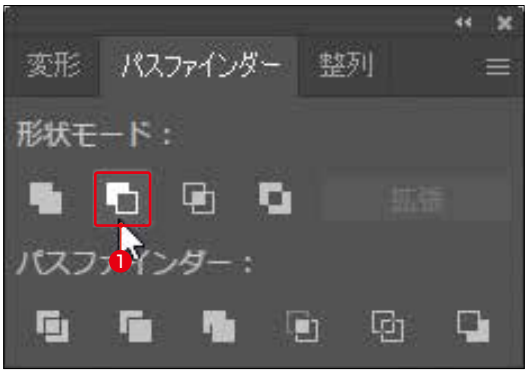
2つの円を囲むようにドラッグします❶。すると、2つの円が選択されます。





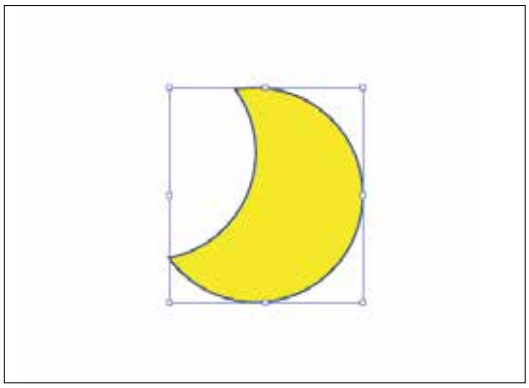
4.パスファインダーで型抜きする①

「ウィンドウ」→「パスファインダー」をクリックして、「パスファインダー」パネルを表示します。「前面オブジェクトで型抜き」をクリックします❶。



5.パスファインダーで型抜きする②

背面にあるオブジェクトが、前面のオブジェクトによって型抜きされます。

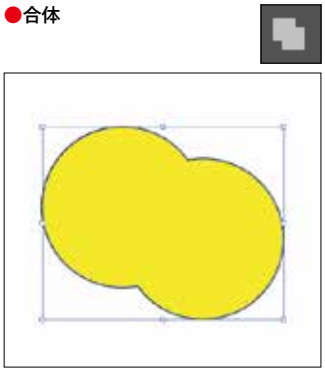


POINT

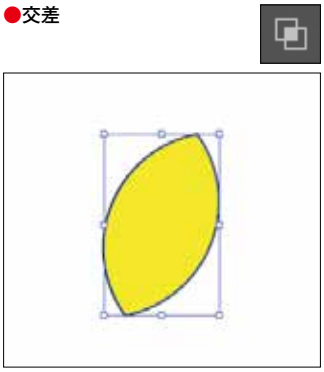
その他のパスファインダー

パスファインダーでは、その他にも次のような合成が可能です。

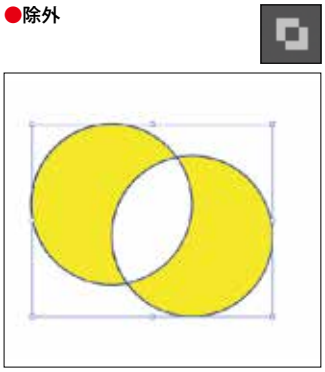
●合体



●交差



●除外



POINT

シンボルの編集

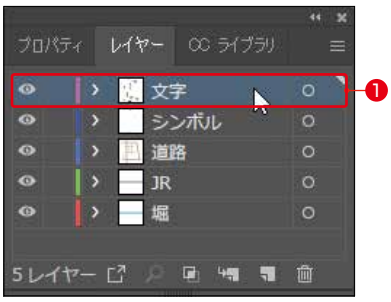
登録したシンボルのうち、1つを修正すると、他のシンボルも同時に修正されます。シンボルの編集は、シンボルをダブルクリックし、シンボル編集モードに切り替えて行います。シンボル編集モードを終了すると、すべてのシンボルに修正が反映されます。Illustratorでは、オブジェクトのコピーに Alt キー（macOS：Option キー）を押しながらドラッグする方法がありますが、この場合、データサイズはオブジェクトをコピーした数だけ増えます。しかし、シンボルを利用してコピーすると、オブジェクトの参照をコピーしているだけなので、ファイルサイズを小さく抑えることができます。プログラムの世界では、これを「インスタンス」と呼んでいます。

文字の入力

文字ツールを利用して、テキストを入力します。縦書き文字の入力方法はP.104のTIPS、袋文字の入力方法はP.106を参照してください。

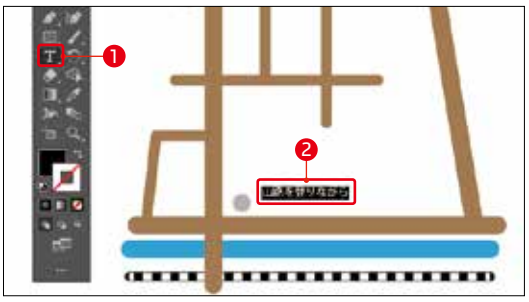
1. 文字を入力する①

新しくテキスト用のレイヤー「文字」を作成します❶。



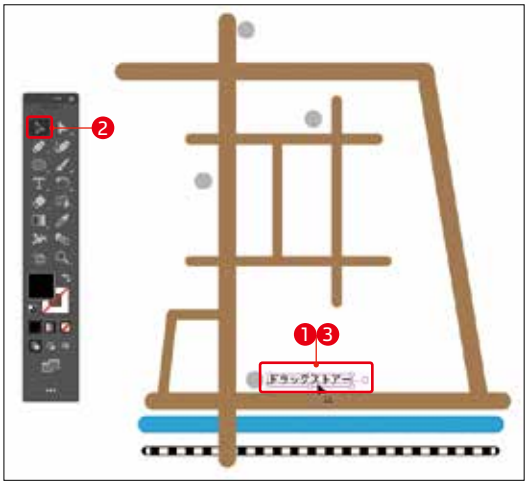
2. 文字を入力する②

文字ツールをクリックし❶、画面上をクリックします❷。「山路を登りながら」というダミー文字が表示されます。



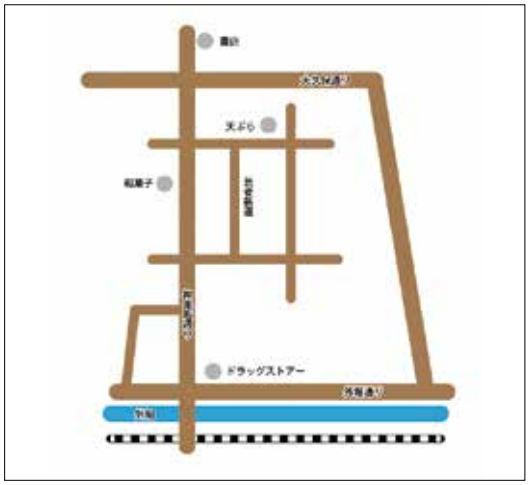
3. 文字を入力する③

「ドラッグストアー」と入力します❶。選択ツールをクリックし❷、文字をドラッグして位置を整えます❸。



4. 文字を入力する④

同様の方法で、その他の文字を入力します。入力した文字をコピー&ペーストして、文字を入力し直してもかまいません。



駅の作成

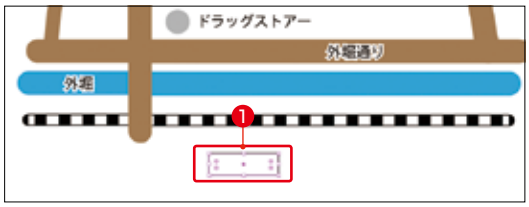
駅は、長方形の上に文字を乗せて作成します。

1. 駅を作成する①

文字ツールで、「飯田橋駅」と入力します❶。

2. 駅を作成する②

文字の上にかぶせるように、長方形ツールで長方形を描きます❶。「線」は「黒」、「塗り」は「白」にします。

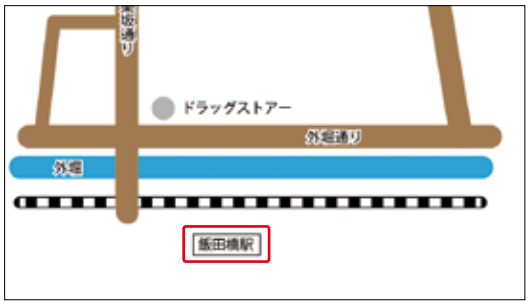


3. 駅を作成する③

長方形の上で右クリックし❶、「重ね順」→「最背面へ」をクリックします❷。

4. 駅を作成する④

長方形が最背面に配置され、駅が完成しました。これでマップの完成です。



SECTION

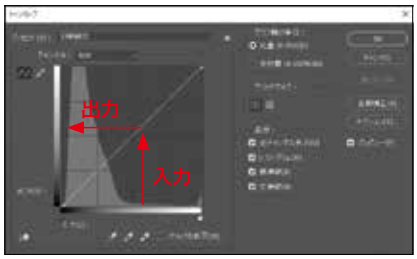
4-7

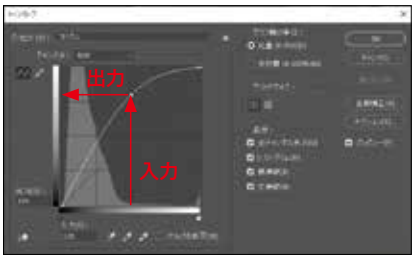
「トーンカーブ」で色調補正する

「トーンカーブ」は、明るさやコントラストを調整する上でもっとも使いやすく、操作のしやすいツールです。

トーンカーブについて

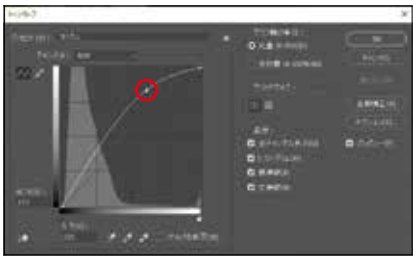
トーンカーブでは、「明るさ・コントラスト」や「レベル補正」で行える調整を、より高い精度で行うことができます。トーンカーブは、横軸が入力値、縦軸が出力値に対応しています。カーブの形状をドラッグして変更することで、画像の明るさやコントラストを変更できます。以下の画面では、カーブを上側に調整したことによって、中央にあるグレーが、出力ではより明るく振られることがわかります。なお、トーンカーブはRGB全チャンネルと、RGB各チャンネルごとに表示・調整できます。また、トーンカーブをドラッグした際にできる白いドットを「コントロールポイント」と呼びます。





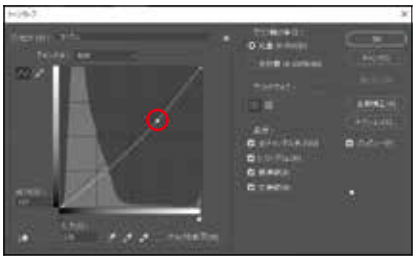
● 明るく補正

トーンカーブのハイライト部を若干上にアップさせます。これで画像全体が明るくなります。



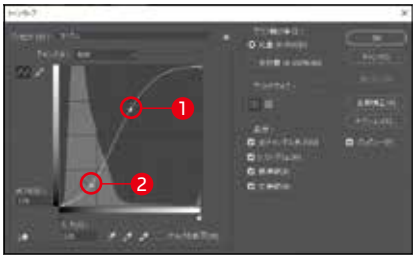
● 暗く補正

トーンカーブのハイライト部を若干下にダウンさせます。これで画像全体が暗くなります。



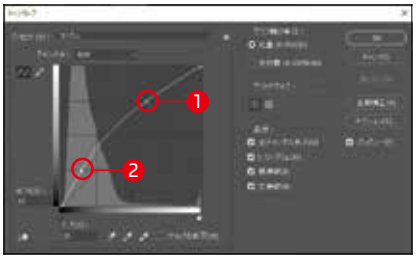
● コントラストを高く補正

まず画像を明るく調整し❶、さらにシャドウ部にコントロールポイントを設定して下にドラッグします❷。この場合、S字のようなカーブになります。



● コントラストを低く補正

画像をやや明るめに設定し❶、さらにシャドウ部に追加したコントロールポイントを上にアップすると❷、コントラストが低くなります。



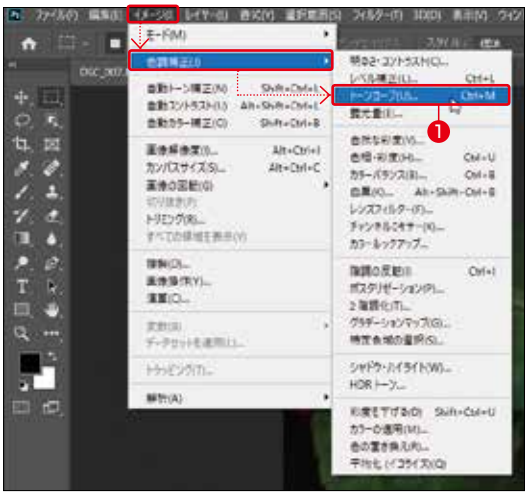
明るさの調整

Chap04▶S4-7-01.JPG

トーンカーブを利用して、明るさを調整します。明るさとコントラストを調整する場合、最初に明るさから調整すると、コントラストが調整しやすくなります。なお、ここでは調整レイヤーを利用しないで補正する方法について解説します。もちろん、調整レイヤーを利用しても補正可能です。

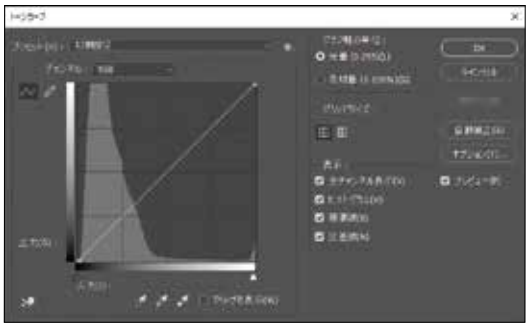
1. トーンカーブを表示する①

メニューバーから「イメージ」→「色調補正」→「トーンカーブ」をクリックします❶。



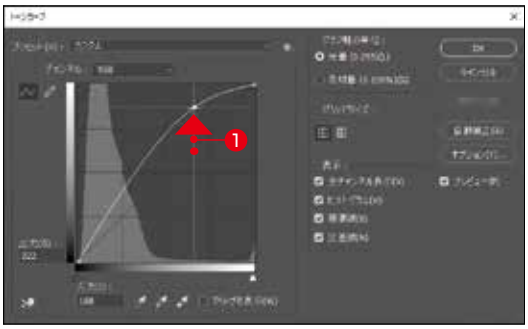
2. 「トーンカーブ」を表示する②

「トーンカーブ」ダイアログボックスが表示されます。



3. トーンカーブを上に調整する

暗い画像を明るくしたいので、トーンカーブを上側にドラッグします❶。



4. 画像が明るく補正される

暗かった画像が、明るく補正されます。

POINT

コントラストを強調するポイント

トーンカーブでは、最初に画像の明るい部分をより明るく、そして暗い部分をより暗くすることで、コントラストの強いメリハリのある画像に補正できます。

SECTION

5-6

「被写体を選択」で選択する

「選択範囲」メニューにある「被写体を選択」は、AdobeのAI機能「Adobe Sensei」を利用した選択ツールです。ピントの合っている被写体を自動的に選択してくれます。

「被写体を選択」による選択

Chap05▶S5-6-01.JPG

メニューバーから「被写体を選択」コマンドを選択すると、画像中の主要な被写体を自動で認識し、選択してくれます。

1. 画像を表示する

「被写体を選択」で範囲を選択したい画像を表示します。

2.「被写体を選択」を選択する

「選択範囲」→「被写体を選択」をクリックします❶。

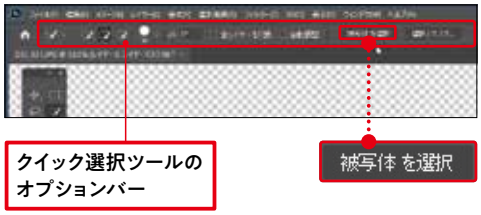
3. 被写体が自動選択される

画像の中でピントの合っている部分が認識され、自動的に選択されます。画面では、車の部分が範囲選択されています。

POINT

他の選択ツールから実行する

「被写体を選択」は、メニューバーだけでなく、オブジェクト選択ツールやクイック選択ツールのオプションバーからも実行できます。



選択範囲の微調整

範囲の自動選択後、他のツールを併用して選択範囲を微調整します。ここでは、ブラシ機能を利用した調整方法を解説します。

1. 選択範囲を拡大する①

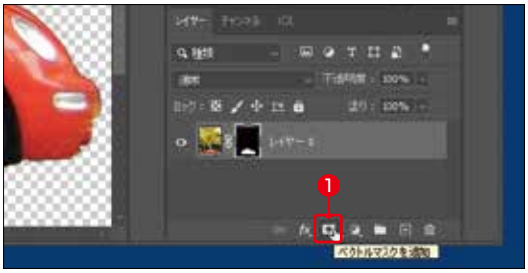
ズームツールを選択して❶、選択範囲を拡大表示します。

2. 選択範囲を拡大する②

ここでは車の上でクリックし、拡大します。車のボディ下の部分が、きれいに選択されていないことがわかります。

3. レイヤーマスクを選択する①

「レイヤー」パネルで、「ベクトルマスクを追加」をクリックします❶。

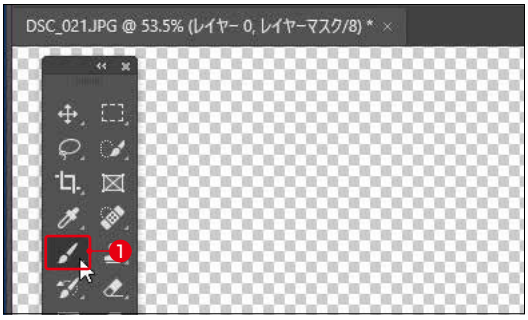


4. レイヤーマスクを選択する②

レイヤーにマスクのサムネイルが追加され、選択範囲以外が透明化された状態で表示されます。選択範囲だけが表示されている状態です。

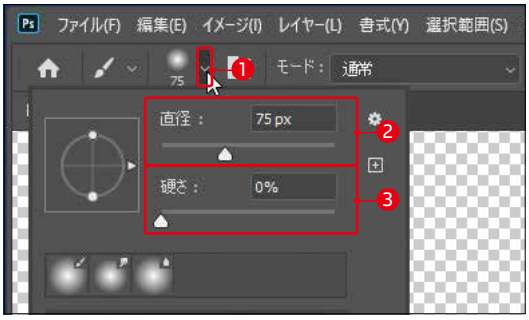
5. ブラシツールを選択する①

ブラシツールを選択します❶。



6. ブラシツールを選択する②

オプションバーで▾をクリックし❶、「直径」でブラシサイズを❷、「硬さ」でブラシエッジのぼかし具合を設定します❸。設定を終了したら、ピッカー以外の場所でクリックして、ピッカーを閉じます。



SECTION

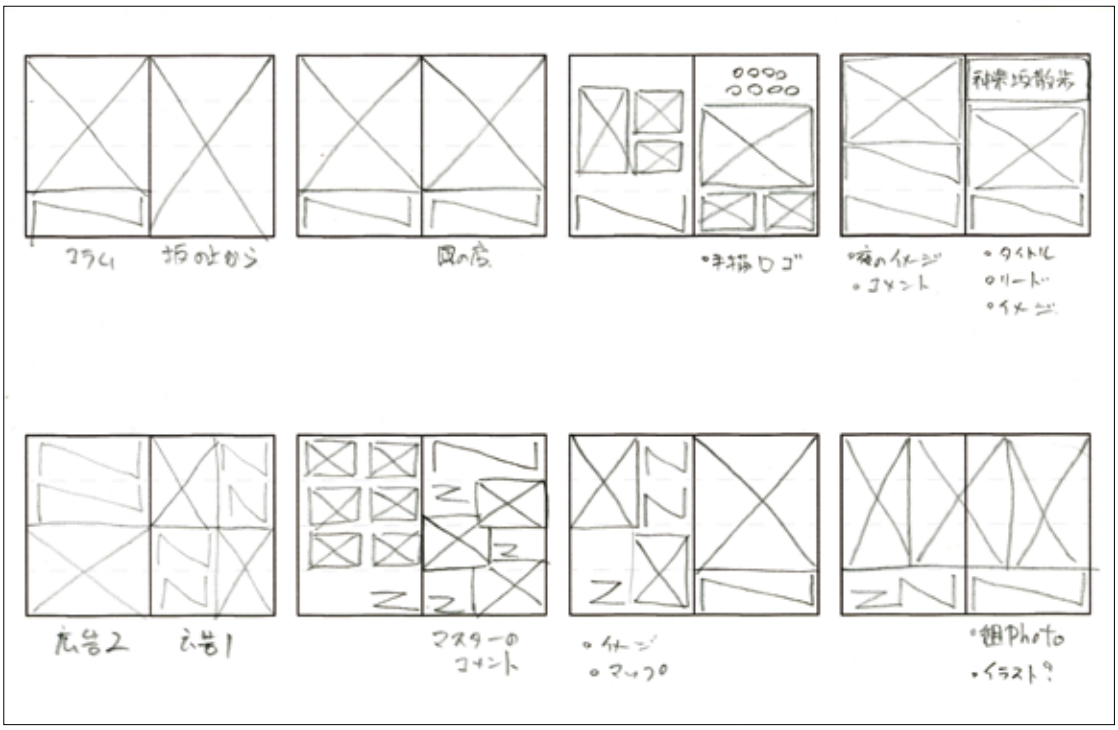
6-2 ページ操作を行う

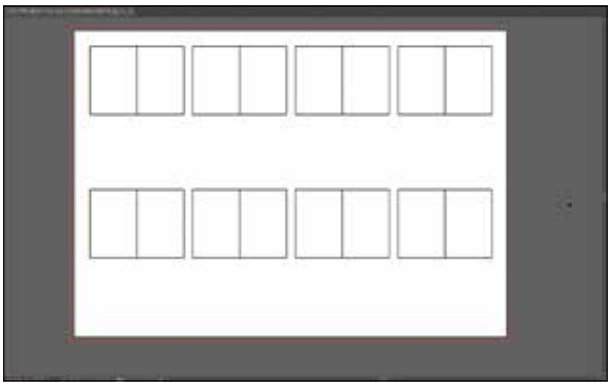
InDesignでは、利用するページを選択・表示して作業を行います。ここでは、ページの表示や切り替え、追加・削除といった、ページ操作の基本について解説します。

ラフの作成

InDesignでのレイアウト作業を開始する前に、準備しておくものに「ラフ」があります。各ページをどのように構成するかを、簡単なラフとして作成しておきます。ラフ無しにレイアウトを開始するのは無謀です。簡単なものでよいのでラフを作成し、作業しながらラフの内容を修正していくという方法をおすすめします。

ラフの作成





TIPS

ラフフォーマットを添付
本書では、サンプルとしてIllustratorで作成したラフ用のフォーマットを用意しました（左画面）。1枚16ページ用のラフです。出力して使用してください。筆者の場合、1枚8ページ用のラフ、見開き2ページ用のラフなど、いくつかのタイプを使い分けています。
【ファイル名】ラフレイアウト用フォーマット.ai

ページの表示

Chap06▶S6-2-01.indd

現在、どのページを編集しているのか、あるいは該当するページを編集したいという場合にページを選択するためのパネルが「ページ」パネルです。

1.「ページ」パネルを表示する

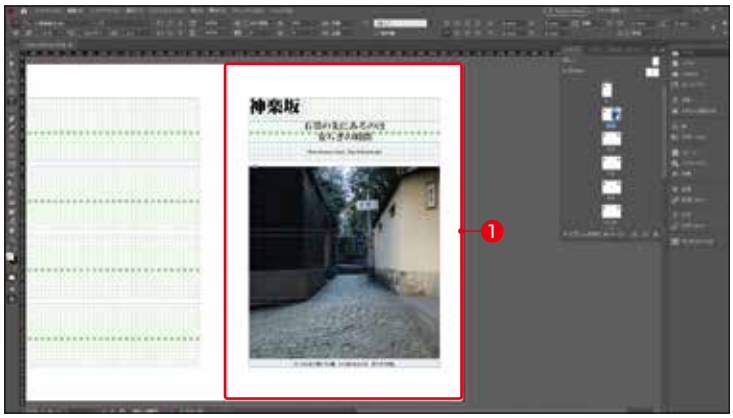
InDesignでは、ページの表示や追加・削除、移動などの操作を、すべて「ページ」パネルで行います。「ページ」パネルは、ドックの「ページ」タブをクリックして表示します❶。「ページ」パネルのタブがドックにない場合は、「ウィンドウ」→「ページ」を選択します。

2.特定のページを表示する①

「ページ」パネルに登録されているのは、「ドキュメント設定」ダイアログボックスで指定したページ数分のページです。本書の作例（S6-2-01.indd）を開くと、2ページ目にだけ、データが入力されています。「2」の上のアイコンをダブルクリックします❶。

3.特定のページを表示する②

すると、2ページ目が表示されます❶。このように見開きで表示される状態を「スプレッド表示」といいます。



TIPS

環境に無いフォント
ページを開いた際に「環境に無いフォント」が表示された場合は、デフォルトのフォントに置換されて表示されます。その場合の対応方法としては、あとからフォントをインストールするか、すでにインストールされている別のフォントに変更してください。

POINT

「スプレッド全体」表示
ページが拡大・縮小表示されていたり、表示画面からページがずれて表示されている場合、メニューバーから「表示」→「スプレッド全体」を選択するか、ショートカットキーの Ctrl ＋ Alt ＋ 0 キー（macOS: command ＋ option ＋ 0）を押すと、画面中央にスプレッド表示（見開きページ）されます。なお、「0」（ゼロ）はテンキーの「0」ではなく、フルキー側の「0」キーです。

SECTION

6-9

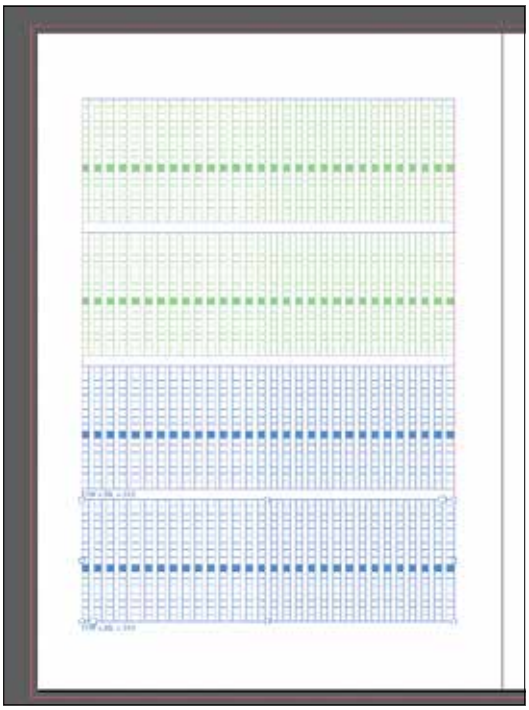
フレームグリッドを利用する

レイアウトグリッドで設定したドキュメントに、もう1つのテキストフレーム「フレームグリッド」を利用してテキストを入力する方法について解説します。

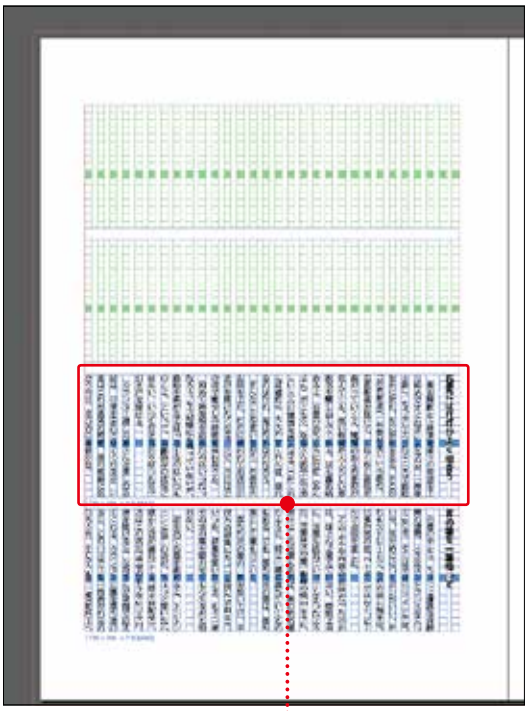
フレームグリッドを利用した誌面作り

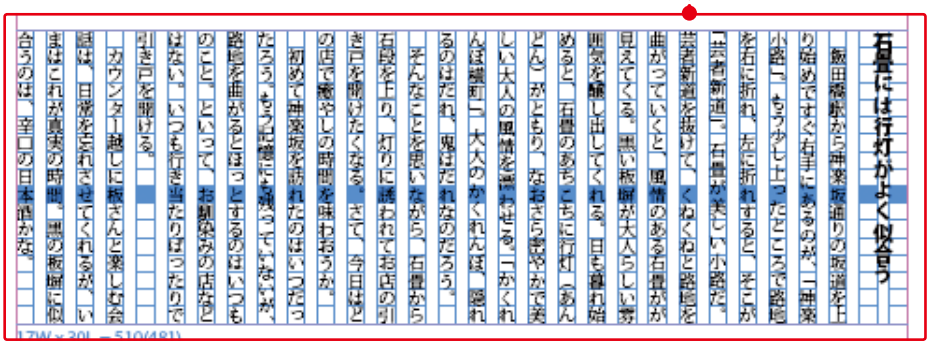
レイアウトグリッドで作成したドキュメントには、緑色でグリッドが表示されています。フレームグリッドは、このグリッドに合わせて配置します。そして、配置したグリッドにテキストを流し込みます。雑誌の場合、フレームグリッドは本文の入力・表示に利用します。

フレームグリッドを配置



テキストを配置





フレームグリッドの設定

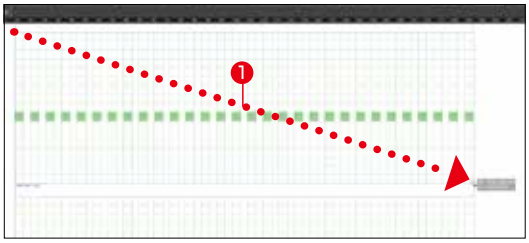
レイアウトグリッドに表示されている緑色のグリッドと同じ位置に、フレームグリッドを重ね合わせるように設定します。

1. グリッドツールを選択する

グリッドツールをクリックします❶。縦書きの場合は縦組みグリッドツール、横書きの場合は横組みグリッドツールを選択してください。

2. グリッドを設定する①

レイアウトグリッドに表示されている緑色のグリッドに合わせて、フレームの設定範囲をドラッグします❶。



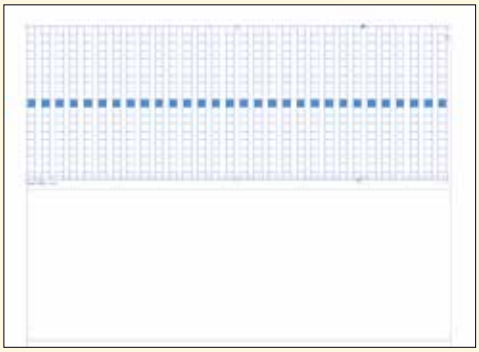
3. グリッドを設定する②

青色のグリッドで、フレームグリッドが設定されます。

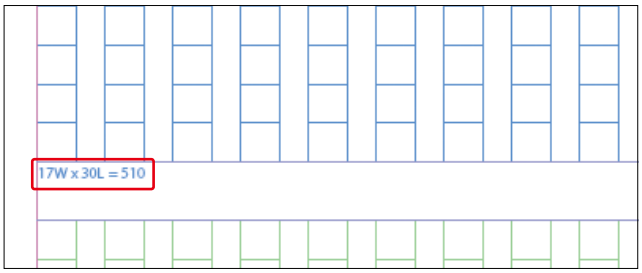
TIPS

「マージン・段組」でドキュメントを作成した場合

新規のドキュメント作成時に「マージン・段組」でドキュメントを作成した場合は、緑色のグリッドではなく、段組の枠が表示されています。「マージン・段組」のドキュメントにフレームグリッドを作成する場合は、この枠に沿ってフレームグリッドを設定します。なお、枠とフレームのサイズが一致していない場合は、「レイアウトグリッド設定」（P.245）で調整します。



POINT

フレームの文字情報

フレームグリッドの左下には、文字数が表示されています。たとえば右の画面では「17Wx30L=510」と表示されています。これは1行17文字×30行＝510文字という情報を意味しています。